

開催日：令和3年7月2日（書面審議）

出席委員：（承諾書提出者 委員14名中14名）

星野和實会長、山崎弘道委員、畠山和男委員、黄淳一委員、秋山賢一委員、間渕文彦委員、山角駿委員、大塚ゆかり委員、千野由貴子委員、板山俊介委員、越水眞澄委員、古屋好美委員、新田正彦委員、神吉まゆみ委員

報告：

1 障害者福祉専門分科会委員の変更について（報告）

事務局：委員1名の退任に伴う、新任の委員1名の報告を行った。

2 「甲府市障がい者福祉計画」の冊子の送付について（報告）

事務局：昨年度策定した「甲府市障がい者福祉計画」本編・概要版を送付した。

議事：

1 第1回審議会を書面で開催することについて（審議）

事務局：新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、第1回審議会を書面で開催することについて説明を行い、各委員から書面にて承諾を得た。

2 「甲府市障がい者福祉計画」数値目標設定事業の評価について（審議）

事務局：数値目標設定事業の一覧表を用いて、令和2年度の数値目標設定事業の評価についての説明を行い、評価内容について各委員から書面にて承諾を得た。

承諾に付された意見

A委員：・福祉計画数値目標の評価ですが、各事業群でパーセンテージの平均を取っていますが、実態把握には不向きではないかと思えます。例えば、達成率が400%の事業があれば、それに引かれて平均が高く出てしまいます。評価の最後に全事業の達成率をA～Dの4群に分けて各達成項目割合を算出していますが、各事業群においてもそれと同様の方法で算出したら如何でしょうか。

・障害児通所支援事業についてです。事務局のコメントの通り、「医療型児童発達支援」の需要はますます高まると思われますが、それにしても各年度の数値目標が低すぎるように感じます。令和3年度もその程度ですか。

・「医ケア児のコーディネーター配置」ですが、令和2年度には養成研修も実施されたと思えます。令和3年度にはしっかりと目標数値が掲げられることを期待します。

B委員：・福祉サービスの全般に渡って新型コロナウイルスの感染症対策のため利用者数の減少はやむを得ない状況と受け止めています。利用控えによって介護負担の増大や当事者の生活の質の低下が懸念される場所です。従業者や当事者、介護家族等へのワクチン接種等の積極的な感染対策によって現状を打破していただくことを期待しています。

・数的には増加の一途である放課後等デイサービスについては、その質の担保が課題であると以前から指摘されているところです。療育的な関わりを行わず、アニメのDVD等を見るだけ、閉じ込めておくだけの事業所や場合によっては支援者による不適切な行為なども全国的には報告されているところです。事業所のアメニティやスタッフの質をどう担保していくか、監査指導を所管する課と連動した介入が必要かと思います。

・令和2年度につきましては、新型コロナウイルスの影響を抜きに計画の評価を行うことはできませんが、障がい者は何事においても後回しにされる傾向にあるため、施策4に掲げられている「地域におけるセーフティネットの構築」を目指し、官民が協働して取り組んでいかねばと考えています。

C委員：・新型コロナウイルス感染症の影響が様々な部分に表れています。例えば、短期入所の利用者数の減少は利用者の利用控えの要因もありますが、事業所が受入を停止していたことも大きいと思います。感染症の障がい者への影響を検証する必要があると考えます。

・相談支援専門員の人材育成 昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、県が主催する相談支援専門員の初任者研修、現任者研修について、人数制限や条件など研修の受けにくさがありました。甲府市でも研修のやり方（オンラインで人数を多く受けられるようにするなど）や機会の増加など県に働きかけていく必要があるのではないのでしょうか。相談支援専門員になりたくても研修が受けられない現状があります。

・長年、障がい者計画策定に関わってきて、目標値や見込量の設定について精度があがったと思います。今後は、将来の利用量の増減に現場が対応していけるように、現場の把握とすり合わせが大切になると考えます。

資料：

- ・資料1 障害者福祉専門分科会名簿
- ・資料2 「甲府市障がい者福祉計画」本編・概要版
- ・資料3 「甲府市障がい者福祉計画」数値目標設定事業一覧表
- ・別紙 障害者福祉専門分科会 書面審議承諾書